

平成29年度研究テーマ **確かな学力を支える読解力の育成**

大津町小中学校共通実践事項

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示
 (3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

8月25日(金)
徳洲

8月23日(水)の校内研では各学年での前期後半以降の検討を行いました。

学年	学年での共通実践事項		
	項目	獲得させたい知識・技能	手立て・工夫
1年	国語	サラダで元氣 「～だから、…を入れた。」のように理由を述べたり、書いたりなどの理由を伝えるための文章表現の基礎を習得させる。	<ul style="list-style-type: none"> 発展過程では家族にサラダを作ることを想定して、料理(サラダ)に関わる本をたくさん準備しておく。 家族のためにサラダを作ることを前提として、調べたり、絵をかいたりして理由(家族のために、「なぜ～を入れるのか」と、自分の気持ちを考えさせる。
	算数	数の概念を身につけさせる <ul style="list-style-type: none"> 20までの数で、10といくつの数の構成をおさえる 十進法の基本をおさえる くり上がり、くり下がりのある加減の基本のために数量関係の基礎を身につけさせる 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物(数え棒、ブロックやおはじきなど)の操作活動を行う。 いろいろな物を一つずつ数えさせて、まとまり(10のまとまり)の有用性に気付かせる。 数の大小や組み合わせの遊びをたくさんさせて、数えやすさのためにどんな見方が必要か気付かせる。
2年	国語	名前を見てちょうだい <ul style="list-style-type: none"> 順序を押さえた上で様子を想像した上で、声や動きで表す →主語・述語、接続語を見つけて中身をとらえる力をつけていく 	<ul style="list-style-type: none"> 着目させるための発問 視覚支援の工夫(色分け、ライン引き、指差し)
	算数	かけ算 1あたりの数、いくつ分かを読みとる力	<ul style="list-style-type: none"> 文に囲みやラインで表したり、絵で表したりする。
3年	国語	サーカスのライオン <ul style="list-style-type: none"> 心情の変化を読み取る →様子・会話・行動にサイドラインを引く 	<ul style="list-style-type: none"> 国語ではサイドラインを引きながら読むが、その後自ら実践する児童は少ない。単元終末に別の物語で、培ったスキルを試させる学習を設定する。
	算数	時間と長さ <ul style="list-style-type: none"> ～分後を読み取れる あまりのあるわり算 <ul style="list-style-type: none"> 確実な計算技能の習得 わり算の意味を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学習した表現を基に、日常生活での体験を増やす。(例)～分後に集合します。等 問題づくりの学習 →見合ったり、解き合ったりするなかでいろいろな問題にふれさせつつ、児童がわり算の場面をどう捉えているかをつかむ

4年	国語	<u>ごんぎつね</u> ・中心人物の心情の変化と周りの人物との関係を叙述から読み取る。	・心情の変化を表にまとめる。(記号や心情曲線の活用)
	算数	<u>面積</u> ・基本的な図形(長方形, 正方形)の面積の求め方が分かる ・不定形の面積も四角形に分け、足したり、全体から引いたりして求めることができる。 ・単位や数値の意味, 単位間の関係	・だいたいどれくらいの面積か予想し、活動しながら作ったり、確かめたりさせる。(学習内容の自覚化) ・板書において、式と図を関連づける。 ・単位や数値の意味を問う。
5年	国語	<u>注文の多い料理店</u> ・工夫された表現を見つけ自分の考えをもつ	・音読の徹底 ・場面分けをし、場面ごとに言葉の意味と紳士のとらえ方のちがいを読みとらせていく。
	算数	<u>分数のたし算・ひき算</u> ・文章を読みとり、立式できる。	・分かっていることと、尋ねられていることに線を引く。 ・答えを予想する。 ・教科書や計算スキルの練習問題等をつかい、繰り返し取り組ませる。
6年	国語	<u>海の命・ヒロシマのうた</u> ・主題をとらえる力 →主題をとらえて、自分なりの考えをもち、まとめる	・言葉、叙述に着目(時、場所、...) ・場面の出来事をとらえる ・人物の心情の変化をとらえる ・問題解決型のめあての提示 ・関連図書を使い、教材文でつけた力をさらに深める
	算数	<u>速さ・比例と反比例</u> ・公式だけでなく、目的に応じて多様な方法で式を導き考える力	・題意を読み取り条件を整理させる →ライン、印、単位の書き込み ・公式の意味を問う ・図や線分図等を手がかりにし、式を導き出していく。

2年生ではかけ算の学習において「1あたり量」や「いくつ分」の学習を進められます。小学校算数で難関ともいわれる「割合」の学習につながる重要なものです。基準量を「1」と見る学習は低学年でも散りばめられています。例えば筆算のしくみも同様です。右のような筆算の下から2段目は「 5×7 」をしますが、正確には「 50×7 」の計算です。10を「1」とみることで、この筆算が成り立ちます。児童が自力で説明できる必要ないかもしれませんが、「何かを1とみる」という視点に多くふれることが重要です。5年生の割合、6年生の速さの学習に関連するものです。

$$\begin{array}{r}
 56 \\
 \times 7 \\
 \hline
 42 \\
 35 \\
 \hline
 392
 \end{array}$$

また、4年生の面積の学習では、「板書において式と図を関連させる」工夫、1・3・6年生の国語科での「関連図書の活用」はテーマ研の提案の中にも示されたものです。大研や中研の事後研等で、実践の一端を紹介していただけると、研究会がさらに深まると思います(^_^)